



News Flash

東京品川に新拠点“イノベーションセンター”をオープン

Nittoグループは、日本発のニッチトップ製品を世界に広げていくグローバル・ニッチ・トップ®戦略と、世界各国の独自のニーズをつかむエリア・ニッチ・トップ®戦略のもと、驚きや感動を与える製品を提供してきました。

グローバル化は今まで以上のスピードで進展し、私たちを取り巻く環境も大きく変化することが予想されます。Nittoグループでは、このような変化に対応して新しいビジネスを創出していくため、2015年11月に、豊橋、中国の上海と青島に次ぐ、4つ目のイノベーションセンターを、東京品川にオープンしました。お客様に

Nitto製品を体感いただき、技術のポテンシャルを感じていただきながら、イノベーションを共に創りだしていく施設です。

Nittoグループは、2018年に創業100周年を迎えます。環境関連の「グリーン」、新エネルギーの「クリーン」、ライフサイエンスの「ファイン」の3つの領域から生まれるグローバル・ニッチ・トップ®製品やエリア・ニッチ・トップ®製品を通じて、事業ポートフォリオをさらに進化させ、社会から信頼され未来に向かって成長し続ける100年企業を目指します。

グローバル・ニッチ・トップ(GNT)、エリア・ニッチ・トップ(ANT)は、Nittoの登録商標です。

株主のみなさまにおかれましては、日ごろからのご理解とご支援を賜り、
厚く御礼申し上げます。

2015年度前半を終えて

主力のエレクトロニクス業界向け事業では、液晶用光学フィルム及びその工程材などの情報機能材料や、極薄両面粘着テープに代表される基盤機能材料が順調に拡大しました。自動車材料は、米国市場を中心に採用が進み、好調に推移しました。メディカル（医療関連材料）では、米国での核酸医薬の受託合成ビジネスが伸張しました。メンブレン（高分子分離膜）は、海上油田や海水淡水化プラントの交換案件の受注により、堅調に推移しました。これらにより、2015年度上半期（4月1日～9月30日）の連結売上高は4,157億円、営業利益は601億円となり、いずれも、上半期としては過去最高記録を更新しました。通期業績につきましては、2015年4月30日に公表した売上高8,700億円、営業利益1,200億円を変更していません。

さらなる事業拡大に向けて

Nittoグループは、常に変化が感じられる現場に身を置き、変化がどのような影響を及ぼすかを予測して、自らを変えることで成長してきました。三新活動（新用途開拓、新製品開発、新需要創造の三つの「新」を掲げたマーケティング活動）は、変化に対応するためのNitto DNAの一つですが、自動車材料では車体フレームの制振補強材やワイヤーハーネス結束用テープ等の販売で大いに成果をあげています。

この成長を加速させるため、2015年7月、カーエレクトロニクスのマーケティング推進拠点を、ドイツのミュンヘンに新設しました。エレクトロニクス業界で培った技術・スピード・人脈等を活かし、カーエレクトロニクスの発展にも貢献していきます。

同様に、航空機業界でも幅広い品揃えを武器に三新活動を行っており、着実に成果が表れてきています。

なお、中長期的な視点で取り組んでいる分子標的ドラッグ・デリバリー・システムを用いた肝硬変治療薬は、米国に加え、2015年4月からブルガリア、6月からは日本にて患者様に治験を開始しました。引き続き、線維症をはじめとする難治性疾患の治療薬を、できるだけ早く、多くの患者様へ提供できるよう取り組む所存です。



Nittoドイツ ミュンヘン オフィス

利益還元について

Nittoグループは、株主のみなさまへの利益還元を、経営上の最重要課題の一つとしています。「ものづくり」をする会社として、必要な設備投資を行うことで、持続的な成長を実現し、安定的な利益の還元を行います。具体的なキャッシュの使途については、優先度の高い順に、設備投資、安定的な配当、成長スピードを上げるためのM&A、自社株買いととしています。配当につきましては、上半期の利益水準、設備投資や財務状況などを総合的に勘案して、1株当たりの年間配当を2015年4月30日にお伝えした130円から10円増配の140円を予定し、中間配当金を5円増額して70円とすることを決定しました。



代表取締役 取締役社長
CEO・COO

高崎 秀雄

TOPICS 1 世界初となるネオジム磁石を開発 従来の枠に留まらない用途展開を進めます

ネオジム磁石は、レアアース磁石の一つで、強力な永久磁石として、電車、自動車、ロボットなど様々な分野のモーターに使用されています。このたび、当社の強みである有機材料に無機材料を組み合わせることで、形状設計の自由度が高く、結晶の配向制御が可能なネオジム磁石を世界で初めて開発しました。配向制御により、モーターの性能向上と小型軽量化に貢献します。また、本製品の特長を活かし、新たな用途展開による価値提供も検討していきます。



ネオジム磁石は様々な用途のモーターに使用されています。手のひらにのっているネオジム磁石の写真は、Nitto独自の技術を用いた形状設計の自由度の高さを表す一例です。



TOPICS 2 東京、大阪に“巨大コロコロ”出現 Nittoの技術を紹介する“Nitto Innovation Museum”を開催

2015年10月15日(木)～18日(日)に丸の内のKITTEアトリウムにて、10月23日(金)・24日(土)にはグランフロント大阪うめきた広場にて、“Nitto Innovation Museum”を開催し、合わせて約6000名の方々にご来場いただきました。

Nittoグループ代表製品の一つである「コロコロ®」を、通常の60倍の大きさ(高さ3m、幅10m)にした“巨大コロコロ”を展示。コロコロの中にはNittoが目指している未来をイメージした空間が広がり、コロコロ®を支える技術から他の多様な技術まで、来場者には、見て、さわってNittoを体験していただきました。



展示した巨大コロコロ(高さ3m、幅10m)
会場:東京 丸の内 KITTEアトリウム ▶

TOPICS 3 日本証券アナリスト大会の討論会に 社長の高崎が登壇

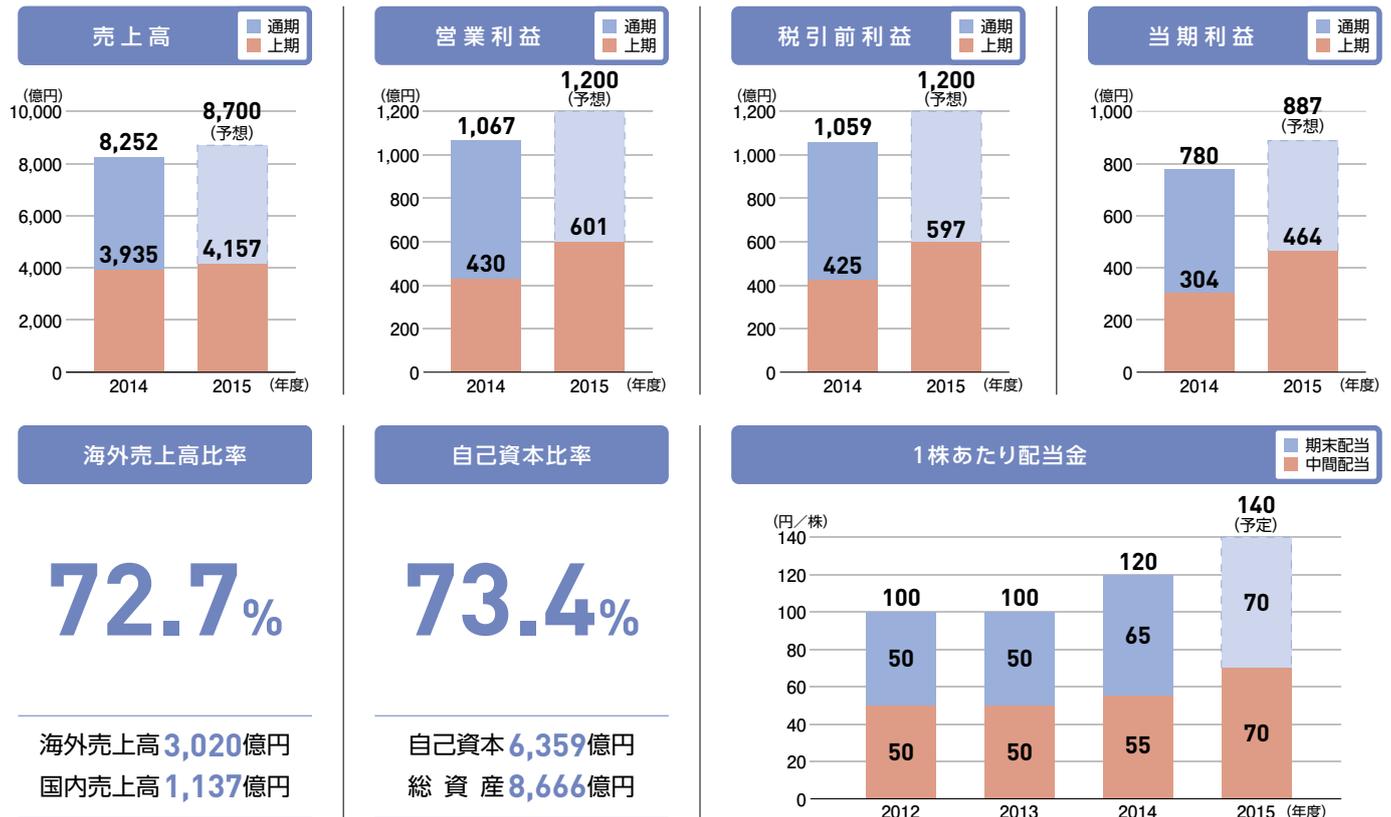
2015年10月9日(金)、「日本企業の収益力向上と株式市場」と題した日本証券アナリスト大会が開催され、600人を超える機関投資家やアナリストが参加されました。登壇した高崎より、今後の成長分野への取り組み、ダイバーシティ(人財の多様性)の重要性、社外取締役への期待、10年後に目指す姿などを説明させていただきました。



討論会の様子 ▶

業績ハイライト

※当社は、2015年3月期決算からIFRSを導入しており、IFRSベースの数字にて開示しています。



ポイント

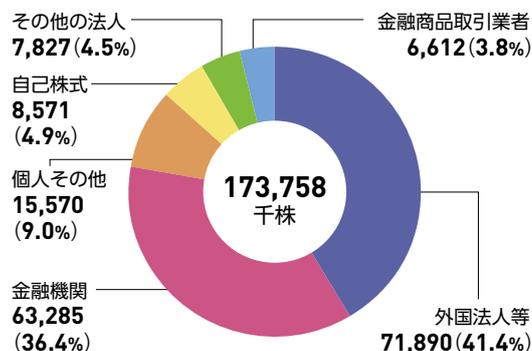
- 1 中国の景気減速が懸念されていますが、Nittoの中国向け製品の多くは、最終製品に組み込まれ再輸出されるものも多いため、上半期の連結業績に与える影響は限られました。
- 2 上半期は、情報機能材料、基盤機能材料、自動車材料、メディカル(医療関連材料)、メンブレン(高分子分離膜)が業績を牽引し、連結売上高・営業利益共に上半期として過去最高を記録しました。
- 3 第2四半期連結業績の利益を踏まえ、1株当たり年間配当予想を、従来の130円から10円増額となる140円を予定し、中間配当金を5円増額して70円とすることを決定しました。

株式の状況 (2015年9月30日現在)

発行済株式の総数 173,758千株
株主数 35,266名

所有者別分布状況

(単位:千株)



株主メモ

証券コード 6988(業種:化学)
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当受領株主確定日 3月31日(期末配当)、9月30日(中間配当)
定時株主総会 6月
単元株式数 100株
上場金融商品取引所 東京証券取引所
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話:0120-094-777(通話料無料)

※株式に関するお手続きについては、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.nitto.com/jp/ja/ir/stock/procedure/>

Nitto

日東電工株式会社 〒530-0011 大阪市北区大深町4番20号 グランフロント大阪 タワーA 33階

UD
FONT
by MORISAWA